



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.25
令和3年3月11日
文責：校長 福島

3.11によせて



今日は東日本大震災からちょうど10年が経つ日です。学校でも午後2時46分に震災で犠牲になられた方々に哀悼の意を表すために黙祷をささげます。

私は2年前に東北被災地を視察する機会がありました。復興道半ばの現地を訪れ、生々しい被災の状況を目に焼き付け、被災された方の話を聞きました。その中で改めて、学校で子供の命を守るために最も大切なのは「自分で判断する力」を育てることだと思いました。

避難訓練で教師の指示に従うことはもちろん大切です。しかし予想外の災害時に大人がいつもいるとは限りません。自分で判断し、命を守る選択ができなくてはなりません。

6年生は今、来週の卒業式に向けて練習をしています。練習が始まると前に立つのは教師ではなく実行委員の子供です。自分たちで今日やるべきことを確認します。昨日の練習は、先輩の姿に学ぶために5年生が見学していました。「5年生に私たちの卒業にかける思いが伝わるようにしっかりリハーサルに取り組みましょう。」代表児童のそんな言葉で練習を始めました。

私は最初だけ参加しました。後から聞きましたが、リハーサルは思うようにできなかったということでした。「感謝や希望の気持ちが伝わらない」ということです。子供たちもそのことは自覚していたようです。練習の終わりに5年生が「今日は参加させていただき、ありがとうございました。」とあいさつをしました。実行委員の子供は「すみませんでした。」と答えたそうです。

私はこの話を聞いて「すばらしい」と思いました。自分で練習を見つめ、判断し、緊張感のある場で自分の言葉として瞬時に表現することができています。

春日小で6年間力を育んだかすがっ子の姿を見る時、私たちが大切にしていることは間違っていないと思えます。失敗すればやり直せばいい。やり直す場は保証します。そんな中でこそ、「自分で判断する力」は育まれます。